

HSK

あすなろ

昭和48年1月13日
第三種郵便物認可
HSK 通巻 419 号
発刊:平成19年

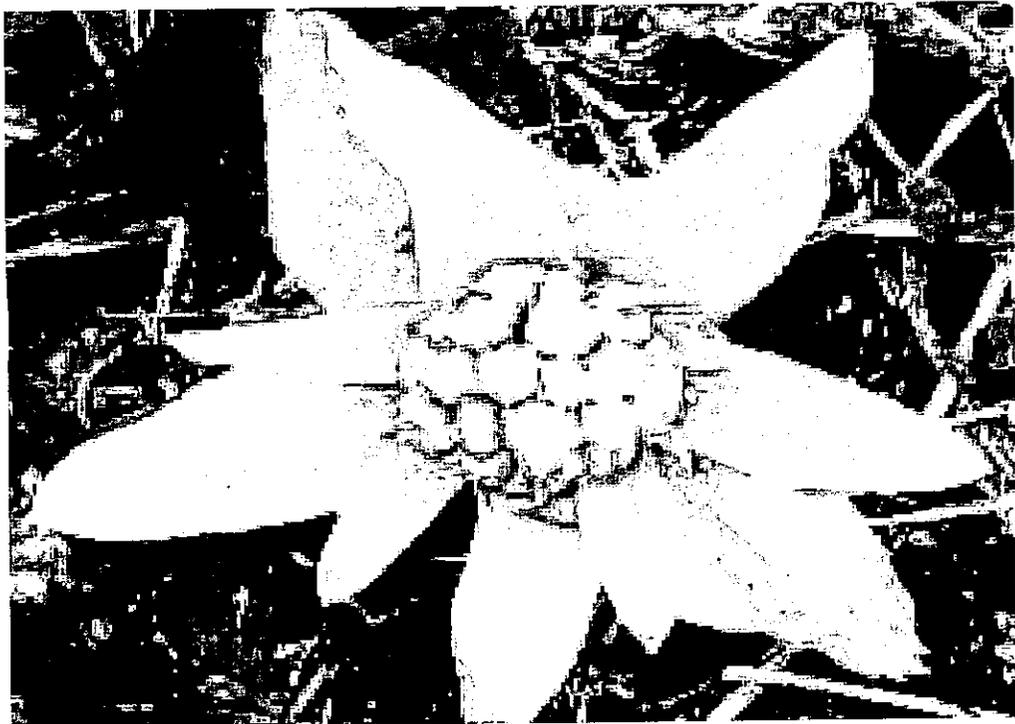
2月10日

毎月10日発行

編集:あすなろ会

発行:北海道身体障害者
団体定期刊行物協会

◆◆◆ 個人参加難病患者の会 ◆◆◆ 会報122号



フキノトウ・・・今年はいつもより早く見られるかもしれませんね。

北海道難病連のスローガン

- ☆ 国と道は、原因の究明と治療法の確立を急いでください！！
- ☆ 全ての難病の治療を公費負担にしてください！！
- ☆ 介護手当の支給と通院交通費、付添費の補助を！！
- ☆ 患者、障害児者の教育の選択権を親と子に！！
- ☆ 医療過誤、薬害を無くし被害者救済を！！
- ☆ 北海道の総合的な難病対策の確立を一日も早く！！
- ☆ 広く道民と手を結び、明るい福祉社会を実現させよう！！



目 次

会長メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
クリスマスパーティーに参加して・・・・・・・・	2
無年金障害者訴訟控訴審傍聴記（第5回）・・・・・・・・	4
シリーズ【病気】サルコイドーシス・・・・・・・・	6
チャリティバザーのお知らせ・・・・・・・・	12
重要 2007年度定期総会のお知らせ・・・・・・・・	13
難病患者の就労支援のモデル事業への参加を募ります・・・・・・・・	14
下垂体の病気の会員さんへお知らせ・・・・・・・・	17
お礼とお知らせ・・・・・・・・	18
広瀬さんの美味しいクッキング・・・・・・・・	21

あすなる会

成田愛子

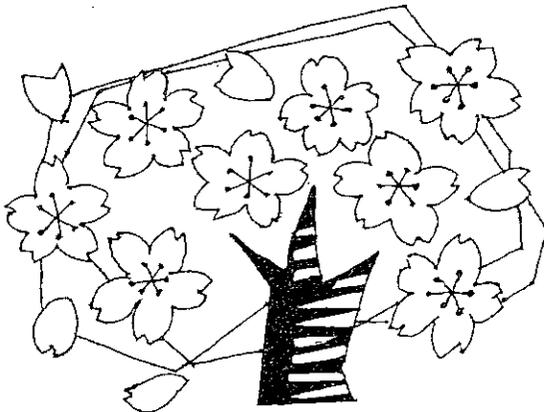
迎春 新年明けましておめでとうございます。

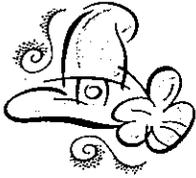
会員・ご家族お揃いで良いお年をお迎えの事とお喜び申し上げます。
今年もあすなる会がますます発展し皆様の笑顔が沢山
見る事が出来ますようにお祈り致します。

2006年を自分なりに振り返ってみましたが、いかに厳しい大変な年だったか・・・！！
こんな時こそ勇気を持ち、声を出し困っている事・悩んでいる事を仲間同士が話し支え合いの「あすなる会」
を作って生きて行きたいです。



総会には皆様に合う事を楽しみにしています。
参加を宜しくお願い致します。





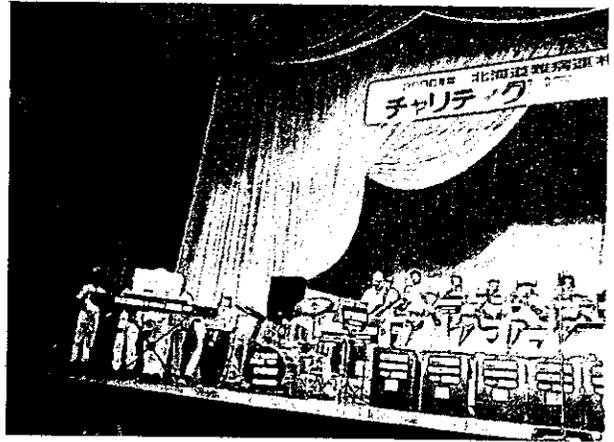
チャリティクリスマスパーティーに参加して

A・S

京王プラザホテル札幌の地下1階に降りて少し迷いましたが、受付に着くと北海道日本ハムファイターズのマスコットのB・B君がいて出迎えてくれました。

ボランティアの人に案内されて着席したあすなる会の席は、昨年が一番後ろの席とは違って前列の中央の特等席で、参加者が少なかった為か全体的にゆとりがありました。

FM Apple DJのJUNさんの司会で開会の挨拶の後、アトラクションが始まりました。札幌ジュニアジャズスクールの演奏で、中学生の部もあり普段札幌芸術の森で練習しているそうですが、とても小学生の子供たちが演奏しているとは思えず、大変上手で素晴らしく、非常に楽しませて



もらいました。演奏の後B・B君が前方のテーブルから順番にクリスマスプレゼントの入った大きな袋を配って回り、テーブルの皆がB・B君に握手し



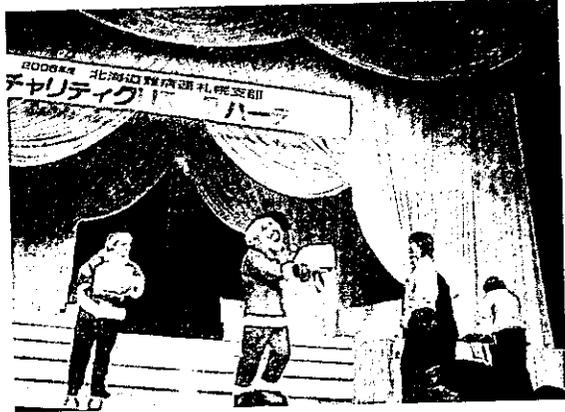
てもらったのがとても良かったです。

私は紳士物のスリッパが欲しかったのですが、お目当ての物をプレゼントしていただくことが出来てありがたかったです。

プレゼントを配り終えた後、B・B君

のリードで YMCA のパフォーマンスに乗って、皆でパフォーマンスをして楽しみました。

その後、B・B 君がくじをひく形で抽選会が始まり、昨年同様あすなる会のメンバーはくじに当らなかったのですが、最後の特賞の京王プラザホテル札幌特製おせちが、同席した男性に当たって本当にびっくりしました。



私は腸閉塞を患ったことと肝臓や胃が悪いこともあって、脂

っこい料理は苦手なのですが、ボランティアの方が大変親切に下さったので、みんなお料理を美味しくいただくことが出来て、誠にありがとうございました。

最後に、B・B 君のキーボード伴奏で『きよしこの夜』を皆で歌って閉会となり、又一个良い思い出が出来ました。

(あすなる会からは6名の参加で病気を忘れてのひと時を楽しみました。ボランティアさん、実行委員の皆さん、事務局の皆さん有難うございます。

京王プラザホテルを会場にするのは3年になります。色々な意見も出ているようです。又、検討し合っ
て来年度はどんなクリスマスになるか楽しみですね。未参加の方、一度いらしてみませんか！)



無年金障がい者訴訟控訴審傍聴記 (第5回)

あすなる会
渡辺 貢一

第5回控訴審は昨年の12月8日に開かれました。早めに札幌高裁へ行って案内表示板の『国民年金不支給処分等取消請求控訴事件』という表示を見て、開廷13時15分で閉廷14時という、前回より15分だけ長い時間設定を確認しました。

高裁庁舎前の歩道を挟んで12時30分から激励集會が行われました。“これで結審”という意識がそうさせたのでしょうか、いつもに比べて集まってくれた方の数も目立って多く、寒風の中で始められた集會も活気にあふれていると感じたのは私だけでなかったと思います。

前回は体調が悪くて姿を見せてくれなかった田中さんも、元気を取り戻してくれたようで、妻倉さん・山道さんと3人の元気な揃い踏みで、何となく明るい雰囲気になっていました。Sさんが来ていただけなかったのは残念でしたが、統合失調症で入院加療中ですからいたしかたありません。

激励集會を終えてみんな揃って8階の法廷に向かいました。廷内にはおおまかにみて40人くらいの方がおられたでしょうか。一般傍聴人席の8割ほどが埋まっていたと思います。

札幌高等裁判所の民事第2部に宛てて、昨年の11月28日付で『最終準備書面』が、控訴人(原告側)代理人の佐藤・肘井・浅井の3弁護士名で提出されておりました。それは第1から第9にまたがる、延べ80頁あまりの大編でした。

13時19分に佐藤弁護士が起立して、その『最終準備書面』をベースに意見陳述しましたが、表情声量ともに自信に満ちた陳述でした。その中で特に私が皆さんにお伝えしたいのは次の3点です。

まず最初は『原審判決を含め、原告の請求を認めなかった判決に共通して見られるのは、障害者基礎年金によって自立したいと考えて救済を求めている重度の障害者の生活の実態や、国民年金法の任意加入をめぐる制度の現実を正しく認識し、これを法律論として取り上げて判断することを放棄し、国の主張する立法裁量権を何の批判もなく採用して原告の請求を認めないという姿勢です。』という

指摘です。

2番目は『裁判官がそのような姿勢をとるのは何故か。1つは社会保障の歴史や国際的な到達点についての理解が不足しているばかりか、社会の中で少数者とされる障害者の生活の現実や障害者が自立していくうえでの所得保障の重要性について、十分な知識と理解がないからであり、2つに、多く裁判官が健常者であり、障害者の生活とは無縁の生活を送っているからだと思われます。しかし、それはたまたま運がよかったからに過ぎないのです。』という意見。

3番目は『本件控訴人ら障害者は社会の中で少数者であり、障害を持つ故に所得のないまま一生を送らねばなりません。障害者が現実の政治の中で立法府を動かし、自らの救済を勝ち取ることは極めて困難です。裁判官各位に対しては、このような少数者の救済を求める声に耳を傾け、権利を擁護することこそ、司法に課せられた役割であることを切望して意見陳述とします。』という主張です。

続けてSさんのお母さん、田中さん、妻倉さん、山道さんが意見陳述しました。

Sさんのお母さんの『裁判官様、どうぞ、息子の人生を救ってください』という、神様にすがるといふような悲痛な声。

田中さんと妻倉さんと山道さんの『私とわたしの家族を救済してください』、『同じ障害を持ちながら、年金が貰える者と貰えない者がいるという不公平を、この高裁の判決においてなくして欲しいと考えます』という切実な声。

どれもこれも難しく考えるまでもなく、“当然であたりまえ”の指摘であり意見であり主張・声ではないでしょうか。

裁判の進行の途中で末永裁判長が国側の代理人を強い語調でたしなめる場がありました。昨年6月の【あすなる会報119号】で、末永裁判長が“温かみのある人間味ゆたかな”判決をくださったことを紹介しましたが、私のイメージはさらにおおきくふくらみました。

閉廷後の14時から弁護士会館で【結審総括集会】がありました。『よりよい判決文を勝ち取るためには、裁判官宛ての署名活動を強力に押し進めることがもっとも重要になる』という結論でした。あすなる会の多くの方々にご協力をいただきありがとうございました。

運命の日は3月30日（金曜日）です。この日の午後に判決が出るのです。おそらく柔かな日ざしで暖かな午後に、きっと人間味のあるやさしい判決がくだされると信じて、高裁前で会いましょう。

シリーズ【病気】サルコイドーシス

(今回はサルコイドーシスです。サルコイドーシスの会員さんは多くいらっしゃいますが、遠隔地の方は講演会にも交流会にも参加が難しい・・・そのような方々に日頃思うことや闘病のご様子など書いていただきました。)

河東郡

M・H

初めてお便りします。サルコイドーシス患者です。

難連でお仕事され、患者のため日々尽力されて居られる方々に御礼申し上げ、ご健康にすごされます事を祈念致しております。

私がサルコイドーシスと診断を受けたのは、1975年(昭和50年)です。その前年から体調が悪かったのですが子宮外妊娠のため手術を受け、その後体力が落ちて入院、退院を繰り返しておりました。

そのうち、目が見えなくなり、体調も最悪の状態を受診した眼科の先生から内科への受診、検査をすすめられ、内科で色々検査の結果「サルコイドーシス(肺・目)」と診断を受けました。

この時は微熱、体のだるさ、体重が減る、目がかすみ、の中で動くのも何もする気もおきず寝てばかりの毎日でした。

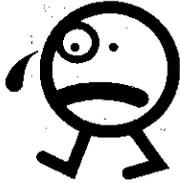
診断を受けてからはプレドニンの服用が始まり、目の方も連日のように検査と薬を・・・繰り返してでした。プレドニンの飲み方も色々の服用の方法を試してもらいました。



診断を受けたのは道外の病院でしたが、この病気を専門に研究されている病院で入院と

通院を繰り返し、何とか好転したところで、道内の病院に移り、内科は(3ヶ月～6ヶ月～1年)毎の検査、眼科は(1週間～1ヶ月～、悪い時は3,4日)

で通院しました。 目の方が悪く薬とは縁が切れません。1998年（平成10年）左目の手術、この時手術のための検査で腎臓が悪いことが分り、こちらでも定期的検査を受ける様になりましたが、1999年（平成11年）肺の方は落ち着いて経過しているということで特定疾患の認定から外されてしまいました。



喜んでおりました。

目の方は通院し薬から離れることはなかったのですが、自分では健康になったと

1999年～2003年まで内科の受診はしませんでした。

2004年（平成16年）に視力低下、他の症状で又内科の検査をすすめられ検査しましたが、今のところ肺は落ち着いているとのことでしたが、眼科の方でプレドニン服用をすすめられ2004年（平成16年）から服用、この年から又特定疾患の認定を受けています。

2006年（平成18年）右眼手術、左眼レーザー手術。

又、サルコイドーシスとは関連がないのかもしれませんが、椎間板ヘルニア、分離症、すべり症で入院、治療もしました。

現在は眼科（検査、薬）、呼吸器科（検査）、循環器科（検査、薬）で診てもらっています。

今回もサルコイドーシスを専門にされている先生に巡り合う事が出来、診察の時等「全治するものでない事、心臓や他にも出る事がある」等色々教えて頂いています。

サルコイドーシスと向き合い乍ら31年の歳月が流れておりますが、この間には様々な事がありました。生活してきた中で体の辛さ、症状が悪い時のあせり等・・・何とか乗り越えて現在に至っています。病気について随分悩んだりもしま



したが、薬を飲み乍らも毎日生活出来る事に感謝。

私よりも重い病気、症状の方、体の方もいられる事を思う時、自分はまだ幸せな方だと思い、毎日を大切に生きていきたいと思っています。

函館市

K・Y

暖かい師走、この温度が私の体の調子を良くしているように思います。肺に入って来る冷たい空気は苦手ですね。

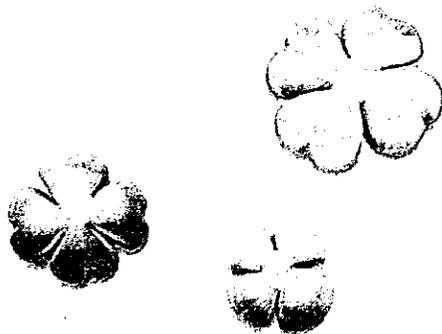
外出する際は、必ず帽子、マスク、サングラス、変なオバサンになりますが、温度差が無いので、戸外室内の移動には良い様に思います。車の運転は、目に支障をきたさない日中だけにします。

出来るだけ アクビ をして、目に潤いを与えると、眼圧も気分的に下ります。アクビ は体の緊張をほぐしてもくれます。

年齢とともにあちこちに支障が出て来ますが、このサルコイドーシスになって 10 年、自分流に病気に向き合ってますが、不安はあります。幸い今の所、目薬と血圧 (1 日 1 錠) で済んでいます。でも又嫌な寒さがやって来ます。足湯をこの頃やって血流を良くしてます。夜は暖かくてぐっすり眠れています (お風呂に入らない時)。

こうして、自分を大切にしていかなきゃ長生き出来ませんヨネ。皆様はいかがなのでしょうか。

皆様もくれぐれもお体にご留意
下さいませ。



皆様お元気でお過ごしでしょうか。

私は発病してから6年が過ぎました。最初は目からでした。

明るい所で白い物を見たり、空を仰ぐと無数の小さい黒点が見えるのです。10年も前から飛蚊症はありました。これは加齢から来るもので何も心配ありません。私はどちらかというとな楽天家のもので、変だな、変だなと思いつつながら半年位も過ぎたでしょうか。

今度は足首の両足外側に赤く変色して少しふくれているのです。でも、痛くもかゆくもないのです。又もどうしたのかしらと思いつつながら過ごしてしましたら、赤い部分が広がって来るし、目の黒点も多くなるばかりです。

友達に、貴女、目が見えなくなったらどうするの、と叱られまして、札幌の眼科に行きました。

眼底出血もしているし、すぐ紹介状を書くので入院の用意をして北大に行つて下さいとの事、その時の私の驚きようの様子を想像して下さい。次の日すぐに出直して北大に行きました。

紹介状のおかげでしょうか。医局長の先生が診て下さいました。サルコイドーシスという病気でぶどう膜が侵されてるとの事でした。

眼底出血しているので点眼薬か、ステロイド剤か、眼球にステロイド剤の注射をするか、三つの内から一つを選んで下さいとの事、点眼薬はなかなか効き目が無いとの事、「先生、先生の奥様がこの様な病気になったら、先生はどれを選びますか」とお聞きしました。先生は迷う事なく眼球に注射をするとの事、私の気持はすぐに決まりました。何とその場ですぐ注射をしていただきました。合計3回していただきました。

その後出血も止まり、今に至っております。



又、先生から鉄道病院にサルコイドーシスの専門の先生がいるので、紹介状を書くので行って下さいとの事。1週間位入院して検査していただくと、やはり肺にも肉芽腫が出来ているとの事、足の皮膚の組織もとって調べてみるとやはりサルコイドーシスとの事でした。

それから1年も過ぎた頃でしょうか。不整脈が出てとっても苦しいのです。階段の上り下りも苦しく呼吸器の先生から循環器の先生に廻されました。そこで又入院して心臓へカテーテル検査をして、やはり心サルコとの事でステロイド剤、プレドニゾロを60m服薬することになりました。

副作用を少なくするために一日置きの服薬でした。今年（平成18年）の夏から15mになりましたが、やはり副作用で糖尿病になり、糖尿の薬も3種類服薬しております。甘党の私には少々辛いものがあります。



でも元来の楽道家の私、夏はパークゴルフにはまっております。とっても楽しいですよ！色々な大会に出場しております。

少々体にきつい時もありますが、なんせ、あのボールを打っている時病気を忘れているのです。

だから、皆にそんなに元気でどこが悪いの？と言われております。冬は室内で楽しんでおります。

でも、毎月札幌への二つの病院への通院は少々辛いです。でも主人が心配してくれて毎回付き添ってくれています。本当に頭が下がります。

私も第1回の交流会に出席させていただきました。あっという間に終わってしまい、少々ものたりなさを感じたものでした。その時も主人が一緒でした。夫婦で出席したのは私だけでした。多田さんのように御主人がいられる方はいいけれどと言われた方がいましたが、本当に主人に私はどれだけ助けられ

ているか分かりません。

これも病気のおかげと思う事にしております。

皆様、辛くて大変でしょうが、笑いは病気をはねのける力があるそうです。

それと私の2人の子供は札幌に家庭を持って
おります。息子と娘ですが、息子の所に2人の孫、
娘の所に1人の孫がおり、病気のおかげで毎月
孫に会う事が出来るので、それは、それは、楽
しみなのです。



どうか、皆様家庭の中に笑いを持って良い1年
になります様にお祈りいたしております。

(同じ病気でも一人一人の個性があるように症状は違いますね。今回書いて
くださった方たちはそれぞれしっかりと自分を持って病気と闘っていられます。
症状によっては書きたくても書けなかった方もいらっしゃるでしょう。

どうか諦めず、投げ出さずに病気と向き合って生きましょう。
なお、サルコイドーシスもサルコイドーシスもどちらが間違いということはない
そうですので、書いてくださった通りにいたしました。)



もう少しの辛抱で辛夷が咲きますね。

チャリティバザーのお知らせ

今年も春のバザーです！！

「なんれん臨時号」でお知らせがいていますね。

3月3日（土） 1：00～4：30

4日（日） 10：30～2：30

場 所 北海道難病センター



このバザーの収益は北海道難病連の重要な活動資金となっており、難病連の運営費、難病医療福祉相談会、医療講演会などに利用させていただいております。ご協力に感謝と今年もお願い！

お手伝いのお願い 軽作業もあります。

物品提供のお願い 本会報がお手元に届く頃はぎりぎりですが、まだ間にあいます。3月2日までに届けば出せます。

衣類はクリーニング済みの物、他もまだ使用できる物をお願いします。

◎ 大型家具、電化製品は遠慮させていただきます。

お手伝いのお申し出や物品に関するお問い合わせは、難病連事務局まで。

(電話 5 1 2 - 3 2 3 3、FAX 5 1 2 - 4 8 0 7)

重 要

2007年度定期総会のお知らせ

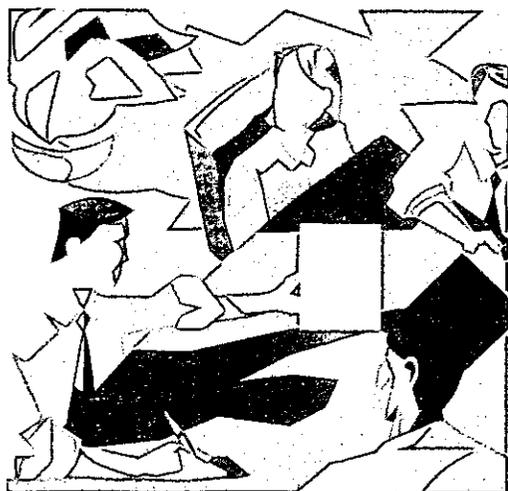
日 時 5月26日(土) 午後1時より議事
場 所 北海道難病センター 3階 中会議室
交流会 議事終了後休憩、午後2時15分より
参加費 500円(茶菓付き)



- ◎ アドバイザーに医療ソーシャルワーカーの 広岡 篤美 氏 をお迎えします。

患者歴の長い(?) 会員の皆さんも、病院で医師と向かい合った時、困ることがありませんか。『医師に聞きたいこと・聞けること』と題して日頃困ること等率直に聞いてみましょう。

広岡氏は一方的に話すのではなく皆さんと対等にお話ししたいと言っています。話の流れでどんな話題になるかも……。それも楽しみにしましょう。



会の運営を決める大事な総会です。
多くのご参加を待っています。

同送のハガキで5月15日まで(準備の都合上)にお申し込みください。

又、遠隔地の方、都合の悪い方も一言をお寄せください。

お問い合わせは事務局

(011-512-3233) まで。

難病患者の就労支援の

モデル事業への参加を募ります

北海道難病連では、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センターの委託を受け、就労支援のモデル事業を開始しました。

【目的】 難病の疾患管理の大きな進歩にかかわらず、難病がある方々の就業については、これまで十分な支援の体制やノウハウがありませんでした。そこで、難病相談・支援センターにおいて、職業生活と疾患管理を両立させるための関係機関との連携も含めた先駆的な就業支援プログラムを実施し、プログラムの効果について、利用者の観点を含めた評価を行うことを目的とします。

【参加者】 国の特定疾患または地方自治体の難病に指定されている病気をもち、現在就業しておらず就業を希望している方、あるいは、現在就業中で職業上の問題を抱えている方。

※ ただし、以下の方は除きます。

- ・ 医師から就業を禁止されている方
- ・ センターから片道1時間より遠方に居住する方
- ・ 同意書提出時に満20歳未満の者、または60歳以上の者

【内容】 難病相談・支援センターの地域連携機能を活用して、難病がある人への先駆的な就業支援を実施します。

(※プログラムは就職の成功を保障するものではありません)

プログラムには3つのコースがあります。

- ・ コースⅠ：各難病相談・支援センターで実績のある方法。

- ・ コースⅡ：障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）が新たに提案する個別支援の方法。
- ・ コースⅢ：コースⅠ・Ⅱの経験を踏まえ、改良された方法。（※3つのコースに利用者の有利/不利の差はありません。）

【協力いただきたいこと】

アンケート調査への協力（2ヶ月毎・一年間）

*** 関心を持たれた会員さんには、直接担当から詳細な説明や資料配布をしますので、下記に連絡をお願いします。***

<担当> 北海道難病連 相談室 福井

電話 011-512-3233

毎週木曜日 13:00~15:00

（曜日・時間の厳守をお願いします。）



下垂体の病気の会員さんへお知らせ

下垂体腫瘍などが原因で、ホルモン系の病気を抱える患者と家族の皆さん。
下垂体の会（下垂会）という全国会が出来ました。

〒206-0012 東京都多摩市貝取1の45の1の206

電話・FAX 042 (389) 4771

<http://Kasuitai.main.jp/>

メール Kasuitai@lx.main.jp

郵便振替口座 00100-4-5550

事務局長 はむろ おとや氏

入会金 1000 円、会費 2800 円

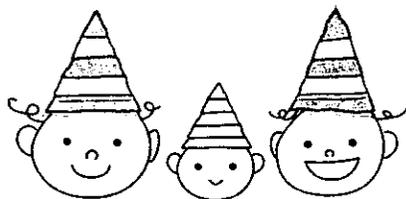
既にこの会のことをお知らせした方もおりますが、入会する、しない、問い合わせする、しないも自由です。今のところ、東京を中心の活動が多いようです。北海道では下垂体機能障害は道単独特定疾患になっていますが、全国はまだで、特定疾患指定要請の署名協力依頼等あると思われま

情報は希望。

会話は勇気。

一緒に、語り合しましょう。

(下垂会のパンフより)



◎ 事務局長 はむろ氏 からのお願い

事務所は私宅を兼ねており、負担軽減のため、なるべく FAX かメール、郵便で問い合わせ願います。医療上の相談にはお答えできません。午前中は在宅が多く、夜は不在がほとんどです。

お礼とお知らせ

☆ つぎの方からご寄付・ご寄贈をいただきました。有難うございます。

A・成田様

E・石川様

K・渡辺様

H・Y 様

☆ JPA 国会請願署名

前会報 121 号に同封いたしました。ご協力・お送りくださった方々ありがとうございます。一人一人の署名が全国で何十万になれば大きな力です。今年も国会請願に行きます！！

なお、まだ用紙がお手元にある方・・・
まだ間に合います。ご家族・知人にご協力をお願いしてお送りください。少々遅れても結構です。宜しく願いいたします。

なお、署名欄以外は何も書かないでください。



☆ 無年金障害者訴訟高裁判決

3月30日午後3時50分です。それに先立って3時15分より高裁前で激励集会を開きます。どちらが勝っても最高裁まで行くだらう本訴訟はこの日が札幌での最後の法廷です。

寒さも和らいでいるでしょう。原告側の勝利を祈りながら、一人でも多くの方が参加することが力になります。裁判所前でお会いしましょう。

「齊藤伸弘選手を応援する会」

帯広身体障害者福祉協会の会員である齊藤伸弘さんは、車いす生活のかたわら、オストメイトという二重苦を乗り越えて、2008年の北京パラリンピックにアーチェリー選手として、出場を目指し毎日練習を重ねています。

このあくなき向上心は、同じ障害を持つ人たちばかりでなく、多くの市民に勇気と感動を与えてくださいます。

そんな彼の選手活動の経済的、また精神的な応援をする会が発足しました。

皆様には、どうかこの趣旨にご賛同くださいますようお願い申し上げます。

入会のお願い！

賛同会費は、各地で開催される大会への遠征費用などに充てられます。

賛 同 会 費

個人会員（年会費）	1口	1,000円
企業・団体会員（年会費）	1口	10,000円

詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

社団法人帯広身体障害者福祉協会

会長 田中幸一

帯広市公園東町3丁目9番地 帯広市グリーンプラザ

Tel 0155(23)0050

Fax 0155(23)1452

あすなろ会の皆さん、次号で又お会いしましょう！

お身体お大事に



寒さに耐えて咲く花もある・・・暖冬の冬は嬉しくもあり、怖くもあり、気象異変は世界中に起こっています。大気に優しい環境を作りたいものですね。

◎ 会費納入のお願い ◎

平成18年度『あすなろ会』会費をまだ振り込まれていない方がおりましたら、早めに振り込んで下さいますようお願いいたします。

会費 2,400円 賛助会費 2,000円(会員は必要なし)
あわせて北海道難病連『運営協力会』にご加入下さるようお願いいたします。



編集後記

早いもので今期最後の会報です。皆様お変わりないですが、感想も寄せこたさばう嬉しいぞ〜す。行っています。柳。

雪が少なく、私達患者にとってはありがたい事です。難病連でもバザー、総会の事など忙がい日々です。あすなろ会の会報作りは相変ず。美味おやの食べ樂し。作成した、2007年度も皆人で笑顔で... ☺

日々の出が約1分ずつ、日の入りが約1分ずつ。早まりくれる毎日が続き向もなく3月です。春の気と氷はうまいね。今期はごごご会報です。女性の日おれとやい。1回が過ぎました。

K. Watahabe

今回の会報は午後から参加しました。合同レク実行委員として、クリスマスパーティーに参加させてくれて、貴重な経験となりました。参加された方は、楽しかったですか？また、皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。

大野

春一箱が来り、春の足音が聞こえてきましたね。3月3日のおひな様が近づき、楽しいイベントが多くて、忙しい毎日を送っています。

サコ

編集人 個人参加難病患者の会 昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
札幌市中央区南4条西10丁目 難病センター内(512-3233) HSK419号
発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川久美子
あすなろ122号(毎月1回10日発行) 1部100円(会員は会費に含まれる)